

「学校教育で地学は生き残れるか？：学会と教育現場との連携に向けて」

日時：6月19日（土） 13～18時

場所：早稲田大学22号館202教室

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-7-14

主催：日本第四紀学会

共催：日本地学教育学会，日本理科教育学会，日本科学教育学会

後援：日本地質学会，日本地球惑星科学連合，早稲田大学教育・総合科学学術院

趣旨：持続的発展可能で安心・安全な社会の構築のためには，将来を担う児童・生徒の科学リテラシーの向上が必要不可欠である。平成24年度から高校理科が3科目必修となる一方で，現在の地学の履修率は低く，地学専門の教員も激減している。このような危機的な状況の中で，地学を教科として存続させ，履修率を上げるためには，学会が積極的に教育現場に働きかける必要がある。本シンポジウムでは，3つの教育系の学会と共同で学校の教科教育を中心とする地学教育，理科教育，科学教育の現状と課題を整理し，学校現場と学会の連携を図るための方向性を議論する。なお，本年8月の日本第四紀学会大会では，生涯教育としての自然史教育をテーマとしたシンポジウムを開催する予定である。

趣旨説明 13:00-13:05（5分） →日本第四紀学会 産総研・植木岳雪

第1部 歴史と未来

戦後の日本の地学教育の流れ 13:05-13:25（20分） →甲南大学・林慶一

新教育課程とこれからの理科教育，地学教育 13:25-13:45（20分） →文科省国立教育政策研究所・田代直幸

神奈川県における理科教員の採用について 13:45-14:00（15分） →神奈川県教育委員会県立学校人事課・中野真理

第2部 現状と課題

原体験・ものづくりを通して生活と地学のつながりを考える 14:00-14:20（20分）
→地学教育学会 京都教育大学・中野英之

地学領域をめぐる諸問題 14:20-14:40（20分） →理科教育学会 愛知教育大学・遠西昭寿

科学教育で大切なこと 14:40-15:00（20分） →科学教育学会 国立科学博物館・小川義和

休憩 10分

梶ヶ谷の大地を探る子どもたち ～小学校理科（地学）への私見～ 15:10-15:25（15分）
→川崎市立川中島小学校・渡邊正人

中学校の教育現場から見た地学教育について 15:25-15:40 (15分) →東京都江戸川区立小松川第二中学校・高橋和光

高校地学の開講に向けて - 専門外教員から敬遠されていた理由と対策-

15:40-15:55 (15分) →埼玉県立深谷第一高等学校・宮嶋敏

大学の教員養成課程からみた地学教育・理科教育・科学教育の現状と課題

15:55-16:10 (15分) →岡山大学教育学部・宇野康司

大学入試科目としての高校地学 16:10-16:25 (15分) →秋田大学教育学部・川村教一

第3部 学会と教育現場との連携に向けてできること、すべきことは何か？

魅力的な教材開発・アウトリーチ活動を通じた地球惑星科学と理科教育の連携

16:25-16:40 (15分) →理科教育学会 岐阜大学教育学部・川上紳一

総合討論 16:40-18:00 (80分)

地学教育学会からコメント →茨城大学教育学部・牧野泰彦

科学教育学会からコメント →国立科学博物館・小川義和

地球惑星科学連合からコメント →神奈川県私立聖光学院高校・畠山正恒

日本地質学会からコメント →新潟大学教育学部 藤林紀枝

第四紀学会からコメント →第四紀学会会長 日本大学文理学部・遠藤邦彦

議論